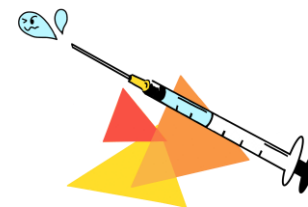


武蔵野市 新型コロナウイルスワクチン 乳幼児接種実施計画



(第1版 令和4年11月7日)

※本資料は現時点での計画内容であり、

今後、国の通知やワクチンの供給量等により内容を変更する場合があります。

武蔵野市



1 基本的な考え方

現在の新型コロナウイルス感染症のまん延状況やワクチンに関する有効性や安全性のエビデンスも踏まえ、乳幼児（生後6か月から4歳まで）への接種の機会を提供することが望ましいと考えられることから、国は乳幼児を対象にワクチン接種を進めることとした。ただし、接種は強制ではなく、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について正しい知識を持っていただいた上で、保護者の方の意思に基づいて接種を判断していただけるよう、国が示すワクチン接種の効果や副反応に関する情報を適切に提供していく。

※国が示すワクチン接種の効果・副反応については11・12頁を参照

接種体制構築にあたっての武蔵野市の方針

新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について、予防接種法の特例臨時接種として、厚生労働大臣の指示のもと、東京都や医療関係団体と連携し、接種を希望する子どもにも安全で確実な接種を行う体制を整える。

2 武蔵野市のワクチン接種の特徴

- ① 武蔵野市医師会と連携し、小児科を中心とした身近な医療機関での個別接種を実施する
- ② 安心して接種できるように、市と武蔵野市医師会は、接種後のアナフィラキシーなどの急を要する副反応が発生した場合の救急受け入れについて、武蔵野赤十字病院と協定を締結
- ③ 適正な間隔で確実に3回の接種ができるよう、1～3回目のセットでの予約受付を実施

3 接種対象者等について

(1) 接種対象者

1 回目接種時点で生後6か月から4歳までの市民

※原則、接種を受ける日に住民基本台帳に記録されている者。ただし、戸籍又は住民票に記載のない者、その他の住民基本台帳に記録されていないやむを得ない事情があると市長が認める者についても、居住の実態がある場合は、接種を実施することができる

(2) 使用するワクチン種類について

乳幼児用ファイザー社ワクチン（mRNAワクチン）を使用。

1回あたり0.2mlを接種する。

※有効成分の1回あたりの量は、5～11歳で接種する量の30%、12歳以上で接種する量の10%

4 想定する接種数

(1) 接種回数、接種間隔

接種回数：3回接種

接種間隔：【2回目接種】1回目接種から、通常3週間

【3回目接種】2回目接種から、8週間以上

※1回目の接種からの間隔が3週間を超えた場合または2回目の接種からの間隔が8週間を超えた場合は、できるだけ速やかに2回目または3回目を接種すること

※インフルエンザワクチンは、新型コロナワクチンとの同時接種が可能。前後にインフルエンザ以外の予防接種を行う場合、原則として新型コロナワクチン接種と13日以上の間隔を空けること

(2) 対象者数、想定接種見込み数

対象者数

約5,000人

※令和4年12月1日時点で生後6か月～4歳の方及び令和5年3月31日までに新たに生後6か月となる方を対象者として想定

想定接種見込み数

接種率：20%

接種見込み数：3,000回（3回接種分）

5 接種スケジュール

(令和4年11月●日時点)

一定の有効性・安全性が確認されていることから、乳幼児の接種についても努力義務の規定を適用することが妥当であるとされているため、確実に情報を提供し、接種を希望する方が安心して接種していただけるよう、接種券は一斉発送とする。

令和4年11月4日（金）	接種券発送 <small>※他の年齢の方と区別するため、クリーム色の予診票を同封</small>
11月8日（火）	個別接種予約開始
11月8日（火）	接種開始

※接種券発送時期以降に生後6か月になる方には、誕生月の前月末に接種券を発送
※個別接種の予約・接種開始時期は医療機関によって異なる

<参考:手引き(12版)より引用>

新たに接種対象年齢を迎える者については、接種対象年齢になる前に誤って接種が行われることがないよう、例えば誕生月ごとなど自治体の発送頻度に沿った発送を行うこと。

また、5～11歳用ファイザー社ワクチンは12歳以上用ファイザー社ワクチンと別製剤であり用法・用量等が異なるため、本人及び保護者の混乱を避ける観点から、1回目接種の時点で11歳の者については、可能な限り12歳に到達する前に2回目接種を完了するよう、余裕を持って接種券等を送付することが望ましい。乳幼児への接種について、本取扱いに準ずることとする。

6 接種体制・予約方法

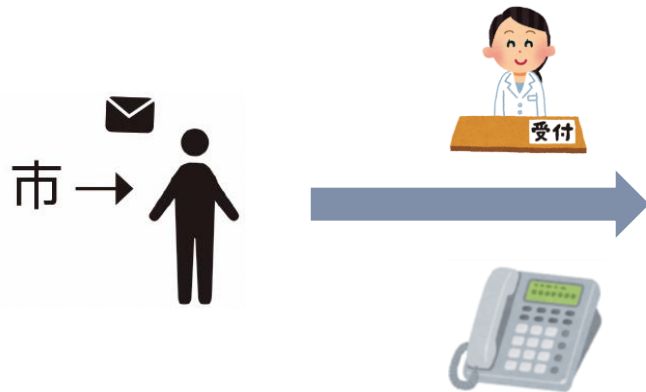
(1) 個別接種

★かかりつけ医などを中心に身近で安心な医療機関で接種

令和4年11月8日から市内の小児科等、約5医療機関で接種を開始。

※ワクチンの供給状況や予約状況等により、接種体制は変更する可能性がある

接種券が届いたら…



【予約方法】

※予約方法は各医療機関で異なる

電話	各医療機関の予約受付時間内に電話で予約
窓口等	診察時等に各医療機関の窓口で直接予約

7 副反応等

副反応等

(1) 国が示す接種後の副反応について

- 接種部位の痛みや疲労、発熱、頭痛等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽度または中等度で回復しており、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されている。(詳細は12頁を参照)

(2) 副反応への対応

- 接種を実施する医療機関において、重篤な副反応が発生した際は、接種医又は関係医療機関が初期対応を行う。その際、必要となる医療機器等は、各医療機関にて事前に準備する。
- 救急搬送を必要とする際は、協定に基づき、武蔵野赤十字病院に受入れを依頼する。
- 接種後、医療機関外において発熱や腫れ等の症状が発生した場合は、まずはかかりつけ医等を受診するよう案内する。
- 東京都新型コロナワクチン副反応相談センター 電話番号 03-6258-5802 (全日24時間対応)

(3) 健康被害救済

- 健康被害が予防接種によるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられる。

8 接種体制の検討・準備

武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種推進本部の設置

ワクチン接種の円滑な実施を推進するため、令和3年1月7日付けで市長を本部長とする「武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種推進本部」を設置し、全庁横断的な体制を構築。計57回開催（R4.11/7現在）。

関係団体との連携

- ・ 令和4年11月1日に市と武蔵野市医師会は、接種後のアナフィラキシーなどの急を要する副反応が発生した場合の救急受け入れについて、武蔵野赤十字病院と協定を締結。
- ・ 個別接種を実施する医療機関に対して、接種に係る注意点等を記載したマニュアルを配布（R4.10/28）。

9 相談・広報体制

相談体制・問い合わせ先

- 武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター
電話番号：03-6736-5604（平日8時30分～17時15分）
- 厚生労働省新型コロナウイルスワクチンコールセンター
電話番号：0120-761-770（全日9時～21時）

市民への情報提供

- 武蔵野市新型コロナウイルスワクチン公式Twitter (@musashino_vac)
- 武蔵野市新型コロナウイルスワクチン公式TikTok (@musashino_vac)
- 市報むさしの、季刊むさしの
- 武蔵野市公式ホームページ
- 武蔵野市公式SNS（Facebook、Twitter、LINE）
- むさしのFM「マイシティむさしの」
- ケーブルテレビ「むさしのシティニュース」
- 子育て応援サイト「むさしのすくすくナビ」 他、掲示・配布など

国が示すワクチン接種の必要性・効果・副反応について

～厚生労働省 新型コロナワクチンQ&Aより抜粋～

1. ワクチン接種の必要性

乳幼児（生後6か月～4歳）の新型コロナウイルス感染症において、重症例の割合は少ないものの、オミクロン株の流行に伴い新規感染者が増加する中で、重症に至る症例数が増加傾向にあることが報告されてきました。また、基礎疾患がない乳幼児でも死亡する例があります。

現在の新型コロナウイルス感染症のまん延状況やワクチンに関する有効性や安全性のエビデンスも踏まえ、乳幼児への接種の機会を提供することが望ましいと考えられることから、厚生労働省の審議会で議論された結果、予防接種法に基づく接種に位置づけ、乳幼児を対象にワクチン接種を進めることとされました。

2. ワクチン接種の効果

米国をはじめとした海外の複数の国々で生後6か月～1歳及び2～4歳を対象に実施された臨床試験の結果によると、3回目の接種から1か月後の血清中の新型コロナウイルスに対する中和抗体価（ウイルスの感染力または毒素の活性を中和できる抗体の数値）や抗体応答率（抗体価がベースライン値（1回目接種前）から4倍以上に上昇した被験者の数）は、別の臨床試験で有効性が確認されている16～25歳におけるワクチン接種後の中和抗体価や抗体応答率と比較して、事前に設定した免疫ブリッジング（*1）に係る成功基準（*2）を満たすことが示されています。すなわち、生後6か月から4歳でも、16～25歳と同程度に抗体価が上昇し、有効性が期待できるとされています。

（*1）新型コロナワクチンを新たに開発するための手法の一つ。すでに承認されている新型コロナワクチンを比較対照として、免疫原性（抗体の産生や細胞性免疫を誘導する性質）の指標に基づき、有効性を評価する手法

（*2）中和抗体価の幾何平均比の両側95%信頼区間の下限値が0.67を下回り点推定値は0.8以上、及び抗体応答率の差の両側95%信頼区間の下限値が-10%を上回る

国が示すワクチン接種の必要性・効果・副反応について

～厚生労働省 新型コロナワクチンQ&Aより抜粋～

3. ワクチン接種の副反応

ファイザー社のワクチンは、生後6か月～4歳の接種において、接種部位の痛みや疲労、発熱、頭痛等、様々な症状が臨床試験で確認されていますが、ほとんどが軽度または中等度であり回復していることや、実薬群とプラセボ（生理食塩水）群とで大きな差はなかったこと等、現時点で得られている情報から、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています。

年齢	症状（発現割合：1回目接種後→2回目接種後→3回目接種後）	
生後6か月～1歳	易刺激性(※1)	51.2% → 47.4% → 43.6%
	食欲減退	22.2% → 22.2% → 20.2%
	傾眠状態(※2)	27.0% → 23.8% → 19.9%
	圧痛	16.6% → 15.0% → 16.0%
2歳～4歳	疼痛	30.8% → 31.0% → 26.7%
	疲労	29.7% → 25.7% → 24.5%
	発赤	8.8% → 11.4% → 10.9%
	下痢	7.7% → 6.7% → 5.1%
	発熱	5.2% → 4.9% → 5.1%
	頭痛	4.5% → 4.6% → 4.9%
	腫脹(※3)	3.7% → 5.7% → 3.1%
嘔吐	3.0% → 3.4% → 1.6%	
悪寒	2.3% → 3.0% → 3.3%	
筋肉痛	2.4% → 2.6% → 2.0%	
関節痛	0.8% → 1.4% → 1.3%	
	発熱	7.2% → 7.4% → 6.8%
	腫脹(※3)	3.9% → 3.9% → 2.7%
	発赤	10.6% → 9.3% → 7.1%

(※1)機嫌が悪い (※2)眠たくなる様子 (※3)注射部位の腫れ

※出典：審査報告書より

他の年代とは異なり、自ら症状を訴えることができない生後6か月～1歳では易刺激性や食欲減退、傾眠傾向等が報告されていますが、プラセボ群とは大きな差がなかったと報告されています。